

令和 2 年度 F D 実施報告書

研究科		教育学研究科	
FD取り組みへの理念・目標			
次世代の地域ニーズに応じたりカレント教育の確立ならびに研究のできる小学校・幼稚園教員、保育士らの育成を目標として、教育と研究の質的向上に取り組み、第 7 次中期総合計画の最終目標の達成を目指す。			
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等		
通年	修士課程（社会人 1 年制）を含む入学定員充足率の向上への取り組みについて、教員間の情報交換及び学校訪問等による情宣活動を行うことができなかった。社会人 1 年制の入学者は 0 名だった。なお秋期入学試験（10 月 17 日）で社会人 2 名、春期入学試験（2 月 20 日）で社会人 2 名、計 4 名の入学者を得た。 研究成果を大学院教育へ還元することについて、研究指導（補助）教員の今年度科研費採択・継続率は 45%に達した。また、研究指導（補助）教員の次年度科研費申請率は 100%を達成した。		
4 月 20 日	これまでの大学院生指導実績、教員の専門性や教育研究業績等をもとに、研究指導教員、研究指導補助教員、大学院授業担当教員の人事計画を策定した。これを第 1 回将来構想委員会(研究指導教員のみ、web 開催)において説明し、研究指導教員のための研究科委員会にて承認を受けた。		
9 月 3 日	対面により第 2 回将来構想委員会(教育学部全教員対象)を開催した。第 7 次中期総合計画中間(案)、管理職研修会発表内容、「認証評価」自己点検・評価シートの内容について共有した。また、修士課程 1 年制の抜本的見直し、研究科内の委員会及び担当委員、第 8 次中期総合計画(案)、令和 3 年度以降のカリキュラム改革の方向性ならびに職業実践力育成プログラムへの申請(案)について説明した。		
3 月 11 日	教育学研究科 FD 研修会を web で開催した。本研究科の課題と教学マネジメント指針の観点からの見直し案、令和 3(2021)年度の課題について共有した。 テーマ「教育学研究科学位プログラムレベルでの自律的な内部質保証体制構築に向けて」（発表者：研究科長、笠原）		
「教育システム改革 2014（FD2014）」の進捗状況			
項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	☐ 未着手 ☒ 検討中 ☐ 実施中 ☐ 実施済	特別研究（修士論文）の評価基準は集約されているため、今後は大学院授業科目レベルの実態を把握してルーブリック導入を推進する。

教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	授業アンケートを実施しているが、結果を組織的に共有する取り組みには至っていない。
教育方法の改善	アクティブラーニング (特に PBL) の推進 PBL：課題解決型授業	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	大学院の授業そのものがアクティブラーニングである。今後もハイブリッド型授業(ハイフレックスタイプ/ブレンドタイプ)の実態把握及び推進を図る。
グローバル教育の推進	グローバル教育の導入	☒ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☐ 実施済	

「FD2014」はサイボウズのファイル管理－「FD センター」にあります